

咄嗟のちよぼくり

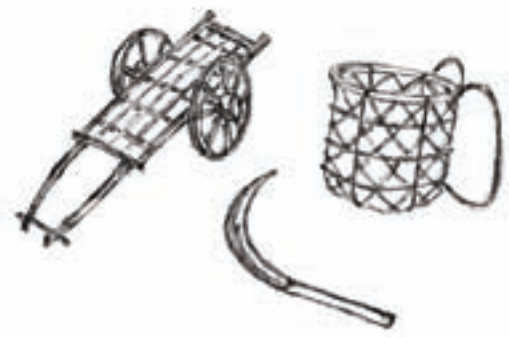
牛や馬に食べさせる草刈りは子供の仕事やった。刈った草は籠につめて家まで天秤棒で担って帰るんや。生の草はどっしりと重く肩が痛かったが、運ぶ手立てはそれしかなかつたんや。

ちよつとたつたら大八車が引っぱられるようになってすべあとに箱車が造り出された。お蔭で運ぶのは楽になったが籠が四つも乗るものになってしまったんや。夏の暑い日、草刈りはあたまわしで川泳びをした。涼しい気持ちええし、楽しいし、あつと言つ間に時間がたつてまった。いかん！気がついたらちよつと草を刈りかけたんやがなかなか思うように刈れん。咄嗟に籠をひっくりかえし、その上に草をつみ上げた。つんぼり高くつんでちよつと家に帰つて小屋の中にぶつちやけた。

子供の知恵と言つやつてなあ。思わずちよぼくりをしてしまったんや。

草刈は、露がおりとる内に刈ると刈りやすい。子供の手伝いはどの家も当り前やった。

※ちよぼくり・・・ごまかすこと



協力	西蚊塚地区長	末松 勝美さん	(73歳)
協力者	岩田 豊さん	(84歳)	
堀 坂 孝男さん	進さん	(83歳)	(78歳)

あの頃の『広報あんぱち』～平成4年12月号の記事より～

美しく潤いのある安八町を  
～第1回「花の都ぎふ」花かざりコンクールで奨励賞を受賞～



あの頃を振り返って  
安八町南條 在住  
西松 和代 さん

当時、西松和代さんは花を飾ることで安八町を「美しく潤いのある町に」という思いでご活躍されていました。



▲表紙



▲第1回「花の都ぎふ」花かざりコンクールで奨励賞を受賞 (まちのトピックス)

岐阜県では平成2年に『花の都ぎふ』を提唱し、平成4年から花かざりコンクールが始まりました。当時、町内での花飾りは計画されていませんでした。しかし、私は、この頃から“花かざりコンクール”を意識して活動するようになりました。何もかもがゼロからのスタートでしたが、同じ夢を抱いていた仲間たちの協力もあり、平成9年に金賞、平成12年には念願の大賞を受賞することができ「夢を実現した」と感動したことを今でもはっきり覚えています。

これからも皆さんが自分の心に、安八町民憲章の一節である「緑と花と太陽があり災害のないまちをつくりましょう」を受け止め、一人ひとりが花飾りで美しく潤いのある町づくり活動に参加していただければと願っています。